

薬剤耐性菌の監視培養検査に関する説明とお願い

患者氏名 _____ 様

鹿児島大学病院

薬剤耐性菌とは、治療として用いられる抗菌薬に耐性(抗菌薬が無効となる)を示す細菌で、日本・世界で問題となっています。

病院には抵抗力の弱い入院患者が多く、薬剤耐性菌が感染すると治療が難しい感染症を引き起こすことがあります。そのため、病院内では薬剤耐性菌の拡大を防ぐ必要があります。薬剤耐性菌は、患者さん自身や患者さん周囲の環境・器具から、医療スタッフの手指や患者さんが共通して使用する器具を介し伝播がおこります。

監視培養検査とは、薬剤耐性菌による感染症をおこしていない保菌の方も含めて、病原体の有無を確認する検査です。当院では薬剤耐性菌の伝播リスクの比較的高い部署(ICU, NICU, 救急病棟など)や、薬剤耐性菌の一つである MRSA(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)による手術部位の感染が問題となるハイリスク手術(開心手術・開胸手術・整形外科手術)などを受けられる患者さんに対して検査の実施をお願いしております。

また、MRSA が検出され、感染のリスクが他の方より高い患者さんに対して、ご自身の感染を予防するために、鼻へ予防の軟膏を塗ったり、手術時に MRSA に効果のある抗菌薬(抗生物質)を使用したりすることがあります。

薬剤耐性菌が検出された場合、医療スタッフはケアの際に手袋やエプロン等を使用する、聴診器や血圧計などの器具を個別化する、必要時は個室への移動をお願いしますが、本来の医療には影響はありませんのでご安心ください。また、この検査の費用はすべて病院が負担いたします。

以上 監視培養検査についてのご説明をいたしました。わからない点や疑問がありましたら、どうぞご遠慮なく担当の医師や看護師にお尋ねください。

説明担当者 _____ 所属 _____ 説明日 _____ 年 月 日 _____